平成26年度議会広報調査特別委員会管外行政視察報告書

１　視察日時　　平成２６年７月７（月）～平成２５年７月８日（火）
【１日目】鎌倉市議会
７月７日（月）午後２時～午後３時３０分の１時間30分
【２日目】武蔵野市議会
７月８日（火）午前10時～午後12時の２時間

２　視 察 先　　鎌倉市議会・武蔵野市議会

３　視察事項　　（１）議会だよりの編集・発行について
（２）議会映像の配信について
（３）市議会フェイスブックについて（鎌倉市）
（４）ＦＭ放送、ケーブルテレビでの議会映像の配信について（武蔵野市）

４　視察目的　　議会情報の発信について、鎌倉市議会で導入しているフェイスブック、武蔵野市議会で導入しているＦＭ放送、ケーブルテレビでの配信方法や配信効果など、を調査・検証し、本市議会の議会情報の一層の充実を図る。また、かまくら議会だよりや武蔵野市議会だよりの紙面の編集方法やレイアウトの構成などを調査し、たつの市議会だよりの一層の紙面充実を図ることを目的とする。

５　参 加 者　　議会広報調査特別委員会（７名）
委 員 長　龍田　　惇
副委員長　木南　裕樹
委　　員　楠　　明廣
委　　員　野本　利明
委　　員　北川　憲一
委　　員　永富　　靖
委　　員　畑山　剛一

《随行》
議会事務局主事　大川　幸徳

6　視察先出席者

〔鎌倉市議会〕

鎌倉市議会事務局　局長　三留　定男
鎌倉市議会事務局　庶務担当　係長　大崎　洋一
鎌倉市議会事務局　議事調査担当　窪寺　　巌
鎌倉市議会事務局　議事調査担当　木田　千尋

〔武蔵野市議会〕

武蔵野市議会議長　与座　　武
武蔵野市議会広報委員長　蔵野　恵美子
武蔵野市議会広報副委員長　斯波　　稔
武蔵野市議会事務局　局長　前田　洋一
武蔵野市議会事務局　次長　衣川　　順
武蔵野市議会事務局　副参事　小山　佳幸

7　行政視察内容

【鎌倉市議会】

（１）武蔵野市議会事務局　三留局長あいさつ
（２）龍田議会広報調査特別委員会委員長あいさつ
（３）鎌倉市議会からの調査事項の説明概要

◎かまくら議会だよりの編集・発行について

①　発行回数　　年４回（２、５、８、１１月の初日）
②　規　　格　　タブロイド判４～６頁（年３回・４頁、年１回・６頁）
③　印 刷 色　　（６頁）１・６面…４色、その他の面…２色
　　（４頁）１・４面…４色、その他の面…２色
④　発行部数　　１回につき 77,500 部
⑤　配布方法　　業者がポスティングし各戸配布する
⑥　そ の 他　　音声版・点字版の作成
　　（社会福祉ボランティア団体の協力による）

◎フェイスブックについて

①　作 成 日　　平成 25 年 12 月 25 日
②　ｱｶｳﾝﾄ名　　鎌倉市議会
③　内　　容　　議会基本条例に関するオープンミーティング及び議会報告会（試行）の実施のお知らせ並びに結果の周知

◎議会映像の配信について

①　導入時期　　本会議中継（平成 19 年 9 月定例会から）
　　常任委員会等中継（平成 22 年 9 月定例会から）

② 導入経緯　　会議当日に市議会へ来られない方に、会議をライブで公開できるほか、録画配信により会議録の完成を待たずに、議会活動を積極的に公開することができる。また、場所を問わず障がいを持った方でも、気軽に委員会を視聴することができ、開かれた議会の推進につながる。

③ 経　　費　本会議中継（月額：688,626 円）
（機器賃貸借料 515,376 円、中継配信委託 173,250 円）
常任委員会等中継（月額：620,970 円）
（機器賃貸借料 365,820 円、中継配信委託 255,150 円）

【武蔵野市議会】

（１）武蔵野市議会　与座議長あいさつ

（２）龍田議会広報調査特別委員会委員長あいさつ

（３）武蔵野市議会からの調査事項の説明概要

◎武蔵野市議会だよりの編集・発行について

① 発行回数　年４回（２月１日、５月 15 日、８月１日、11 月１日）及び改選後の人事特集号

② 規　　格　タブロイド判４～８頁

③ 印 刷 色　カラー（４色）
配色については、色弱者などに配慮している

④ 発行部数　１回につき 83,350 部

⑤ 配布方法　シルバー人材センターへ委託しポスティングにて市内全世帯に配布

⑥ そ の 他　声の議会だより
（希望者 38 名にボランティア団体による朗読テープ、ＣＤを配布）

◎議会映像の配信について

① 配信内容　本会議、予算特別委員会、決算特別委員会の生中継と録画中継

② 導入時期　平成 18 年９月定例会より

③ 導入経緯　平成 15 年６月から、武蔵野三鷹ケーブルテレビ株式会社に委託し、一般質問の生中継は行っていたが、平成 17 年度の議会改革検討の中で、本会議のすべて、予算特別委員会、決算特別委員会でもインターネット中継を実施することとなった。

④ 経　　費　導入経費：中継機器のリース料　1,441,000 円（年間）
経常経費：映像配信業務委託料　4,502,000 円（年間）
経常経費：中継機器保守委託料　　517,000 円（年間）

８　視察結果及び所感について

今回の行政視察の結果、鎌倉市議会、武蔵野市議会での広報についての取り組みをまとめると下記のとおりである。今後、当委員会での視察事項を検討する中で、両市の取り組みで良いと思われることは積極的に導入し、市民の皆さんに市政・議会について興味を持ってもらえるよう取り組んでいくことが重要であると思う。

（１）　鎌倉市議会

≪議会だよりの編集・発行について≫

・配布については、業者へ依頼している。本来なら一般競争入札による契約が望ましいが、各戸に配布出来る業者が一社のみの為、実質随意契約となっている。

・委員は、各会派から１名で構成（2014 年度現在８名）

・議会広報委員会の開催日数等

通常、１回の議会だよりを発行するのに、定例会最終日と発行の約 10 日前の２回開催（発行までの流れは下記『かまくら議会だより発行までの流れ』参照）

・音声版・点役版の発行については平成 12 年８月１日発行号より、社会福祉ボランティア団体の協力を得て、音声版・点訳版を発行。発行分は図書館に保存。

・一般質問の原稿について

議会広報委員会で検討した結果、議会の流れを市民にわかりやすく伝えるには氏名掲載形式より事項別掲載形式のほうがより良いのでないかとの結論に至り、平成 16 年より議員氏名は掲載せず事項別に変更している。

・１面掲載の記事について

平成 24 年５月１日発行分より、議会の活動を誰もがわかりやすく理解してもらえるよう、「かまくら市議会ってどんなところ？」というテーマに変更し、議会の仕組みを解説している。

『かまくら議会だより発行までの流れ』

日　程	作　業　内　容
定例会最終日、最終日後２～３日以内	○第一回目の議会広報委員会を開催
原稿作成等の作業日数は 20～30 日程度	○議会事務局における作業 ・原稿作成 ・一面の特集記事の作成 ・見出しの検討
発行日の約 10 日前	○第２回目の議会広報委員会を開催 審査する案件 ・議会事務局で作成した原稿を、協議・確認 ・１面の色合い（イメージ）を確認
発行の約７日前	○議会事務局職員が２回校正を行う
発　行	２、５、８、１１月の初日

≪市議会フェイスブックについて≫
・鎌倉市議会フェイスブック運用方針に従って運用。
・導入の経緯
　市民が議会に対して何を考えているのか把握し、それを条例に生かしていきたいとの意見があったことから、「市民と議会の関係」というテーマで、オープンミーティングを平成 26 年に開催することを決めたときの周知方法としてフェイスブックの運用を開始。
・運用してみて
　いいね。の反応は 400 件ほど。20 代、30 代からは好意的に思える。フェイスブックをみてオープンミーティングに来たという市民が予想より多かった。

【所感】
・議会だよりについて、鎌倉市では市民の皆さんに広く広報を読んで欲しいとの意向で文字数を少なくしている。
　また一般質問が氏名別ではなく、事項別となっている。同じ項目での質問が複数議員にわたる場合、事項別のほうが分かりやすい場合があるが、本市と鎌倉市を比較すると、本市の面積は鎌倉市の 5 倍ほどある為、地域別の問題もあることを考慮すると文字数､氏名別共に現状が良いと思われる｡しかしながら、議会についての広く知ってもらえる為には議会の仕組みの掲載や網掛けなどの工夫により、より読みやすい紙面作成を今後も検討していく必要があると考えられる。
・フェイスブックについては、まだ運用が短いが 20 代、30 代といった若年層に市政を身近に感じて頂くという点からは有効だと考えられる。今後はフェイスブックの他にラインを活用しているところもあるので、議会としてか、市の広報としてか、協議をして活用していくことも検討すべきだと感じる。しかしながら、フェイスブックはあくまでも広報であるため、市民の方からコメントを頂いた場合、不特定多数が閲覧するフェイスブックに返信をすることは好ましくない。あくまでも広報、市政・議会への興味を持ってもらうツールとしての活用が重要である。

（２） 武蔵野市議会
≪議会だよりの編集・発行について≫
・委員は、各会派比率表に基づき選任（2014 年度現在　８名）
・議会広報委員会の開催日数等
　１号につき原則２回（各定例会の本会議最終日に１回、閉会後に１回）
・声の市議会だよりとして、昭和５８年より取り組んでいる。現在の対象者は 38 名。
・親しみやすい紙面づくりの為に１面には毎回公募の写真を掲載､また『With You』というコーナーを作り､市民の方にまちの身近な情報を提供している。
・色弱者などに対する配慮として、「ＮＰＯ法人カラーユニバーサルデザイン機構」から色の指示を含んだ印刷仕様書を作成してもらっている。
・以前の市議会報は 2 色刷りで文字情報の多いものだった為、「文字が多すぎて、読む気が起こらないのではないか」という問題意識があり、平成 14 年度より議会報運営委員会の下にプロジェクトチームとして議員４名から

なる小委員会を設置し、紙面の刷新と情報提供体系の整理を行った。

≪ＦＭ放送、ケーブルテレビ等での議会映像の配信について≫

・配信内容は本会議すべてと予算特別委員会・決算特別委員会を生中継と録画中継（ＶＯＤ）
・開始時期は平成 18 年 9 月定例会より
・導入の経緯
　これまでも平成 15 年 6 月議会から武蔵野三鷹ケーブルテレビ株式会社に委託し、一般質問の生中継は行っていたが、平成 17 年度の議会改革検討の中で本会議すべてと予・決算特別委員会に拡大すること及び録画中継を実施することとなった。
・配信手順
　配信は本会議場及び委員会室に設置したカメラ・液晶タッチパネルを使用し事務局職員１名が操作している。
・市長・議員名等はテロップ表示をするほか、議事日程・一般質問内容を別に表示。
・録画ファイルはおおむね３日後に配信。

【所感】

・議会だよりについて、武蔵野市も鎌倉市同様に市民の皆さんに広報を読んで欲しいとの意向より、文字数を少なくして読みやすい紙面づくりを行っている。
　工夫として１面の写真を公募している。本市も以前検討したことはあったが投稿者が同じ人物ばかりで、公募の中から必ず選択しなければならないとするよりは、季節・地域の行事の中から候補を協議し、写真を選択するほうが市民の皆さんに身近に感じてもらえるのではないかとの結論に至った。
　議会報はすべての情報を紙面に掲載することは難しいので、「市議会への入り口」として手に取ってもらい、正式な記録・内容についてはホームページや会議録に導いていくことが大事である。特に若年層に議会に興味を持ってもらえるよう、地域の情報やお店などの情報を紹介したりして紙面の工夫をし、市民の皆さんに身近に感じてもらうことが今後、議会だよりを発行していくことで重要だと感じる。